「核兵器禁止条約」への署名・批准を求める意見書採択

に関する陳情書

討論要旨　いとう伸一議員

もし自分の大切な家族が核兵器の犠牲になったら、我々はどう考えるでしょうか。核で攻撃されないように、安全保障の抑止力として核保有で対抗しようと考えるのか、それともこの世から核がなくなるよう働きかけるのか、私の今回の論点は３つでございます。

今年の８月、広島市原爆死没者慰霊祭並びに平和祈念式において、広島市議会議長からは、世界恒久平和と核兵器廃絶の実現に向けて、未来志向で全力を尽くすと式辞があり、内閣総理大臣からは、核兵器のない世界の実現に向けて努力を着実に積み重ねていくことは唯一の戦争被爆国である我が国の使命ですと挨拶がありました。また、尾張旭市役所の１階では、「尾張旭市は、核兵器の廃絶と恒久平和の実現のために努力していくことを決意し、ここに『非核平和都市』を宣言します。」と市民に向けて明確にメッセージを出しております。

１つ目の論点です。本市行政は、核兵器廃絶を決意し、宣言し、市民に発信しております。それに関する陳情を議会が反対するということは、行政と議会の意見の相違になってしまうのではないかということです。

２つ目の論点です。残念ながら、現在国際社会では幾つかの紛争があります。核兵器には抑止力がある、一部の国だけが核兵器を保有するのは安全上問題がある、日本は核に守られているなどを理由に、現実的に考えると、今は賛成できないという意見を聞きます。しかし、以上の理由は基本ではなく応用だと私は考えます。あくまで原理原則、基本は核兵器廃絶ではないでしょうか。恒久平和のためには現実とは別に、核兵器廃絶を選択すべきと特に我々市民はそうであってほしいと思います。

３つ目の考えは、ここは市政であり、国政ではないということです。私は国の安全保障は大切と考えています。相手国との交渉には、多くの外交上の課題があると思います。しかし、唯一の被爆国に住む市民の代表として、議会が核兵器禁止の陳情に反対するには違和感があります。この陳情に賛成している自治体は全国に多くあります。あくまで原則に立ち返り、市の行政が宣言している核兵器廃絶に向かおうではありませんか。

尾張旭市が非核平和都市宣言をしていること、現実論はあるが、ここは原則論を取ること、ここは国政ではなく市政であること、以上をもって賛成討論といたします。